

OES005-P20

会場:コンベンションホール

時間: 5月23日17:15-18:45

自然と親しみ、自然に触れ、自然から学ぶ-白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想-

Close to Nature, Touching Nature, Learning Nature "The Shirataki Geopark Project"

堀嶋 英俊^{1*}, 熊谷 誠¹

Hidetoshi Horishima^{1*}, Makoto Kumagai¹

¹遠軽町総務部ジオパーク推進課

¹Engaru Town Geopark Promotion Department

自然と親しみ、自然に触れ、自然から学ぶ
-白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想-

堀嶋英俊・熊谷 誠・和田恵治・加藤孝幸・木村英明

1. はじめに

北海道遠軽町には、世界的規模の黒曜石鉱体と、その黒曜石を加工し石器製作を行った大規模な旧石器遺跡群が存在する。白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想は、これらの特色ある地域資源と恵まれた自然環境を保全しながら、ジオパークとして教育啓蒙や観光資源への活用による持続的な地域発展を目指している。

遠軽町では、白滝地域の黒曜石や遺跡群が世界にも通用する貴重な「遺産」として、黒曜石原産地を中心としたジオパークづくりを進め、教育啓蒙や観光振興を通じた地域の活性化を目指した取り組みを進めるとともに、世界ジオパークへの加盟を目指している。

2. 世界的規模の黒曜石原産地

遠軽町白滝地域の赤石山周辺は、国内最大の黒曜石原産地で、その埋蔵量は世界的な規模ともいわれている。今から220万年前、赤石山周辺を中心に流紋岩マグマが噴出し、流れ出た溶岩が冷え固まって黒曜石が誕生した。赤石山周辺には、その火山活動の記録ともいえる黒曜石の塊が大きく顔を覗かせる露頭が点在しており、さらに最近の調査では、火山の噴火によってできたカルデラと見られる地形が見つかっている。

白滝黒曜石は、日本の地質事象上、貴重な地域を選定し保全活用を図る「日本の地質百選」に選定され、地質学的に重要な箇所であることが認められている。

3. 旧石器時代の大規模遺跡群

遠軽町白滝地域には、旧石器時代（今から25,000~10,000年前）の遺跡が多数存在している。白滝地域の遺跡の特徴は、良質で豊富な石器の材料となる黒曜石の原産地が隣接するため、石器製作を行った大規模な遺跡が残されていることであり、一つの遺跡から出土する遺物は数十万点を数え、全国的に見てもこのような大規模な遺跡が集中して残された地域は無く、「白滝遺跡群」として国指定史跡となっている。

細石刃と呼ばれるヤリの先端に固定して使用した石器の製作には、湧別川の名にちなんで名づけられた湧別技法が用いられ、石器が大量生産されていた。良質な黒曜石の原産地であった白滝は、石器製造の一大中心地であったと考えられている。

石器の材料に適した良質な白滝の黒曜石は、時代を超えて北海道各地や東北北部、さらには遠くサハリンの遺跡からも出土しており、先史時代を通じて黒曜石の流通ネットワークが存在していたことを物語っている。

4. 周氷河遺存環境と豊かな自然

遠軽町白滝・丸瀬布地域には、永久凍土層や風穴があり、周辺地にはナキウサギが生息するなど、周氷河環境を含む恵まれた自然環境が残っている。湧別川上流域にあるこの地域は、北海道でも有数の森林地帯であり、今もなお、多様な植生、生態系が残っている。

5. ジオパーク実現に向けた取り組み

地質学的・考古学的・生態学的資源のほかにも、多くの文化・観光施設や温泉などが存在するこの地域は、ジオパークに適したエリアといえる。

遠軽町は、地域の多様な資源を活用したジオパークづくりと地域社会の発展を目指し、普及啓発事業、学術調査・教育啓蒙事業、情報発信機能整備事業、環境保全事業などに取り組むとともに、白滝黒曜石遺跡ジオパーク構想推進協議会との連携によるジオパーク構想推進の活動に取り組んでいる。

キーワード:ジオパーク,黒曜石,旧石器時代,環境保全

Keywords: geopark, obsidian, paleolithic period, environmental conservation